



資料 1

県営水道の諸課題等について (施設整備編)

令和 7 年 8 月 12 日開催

第13回 神奈川県営水道事業審議会資料

事故概要

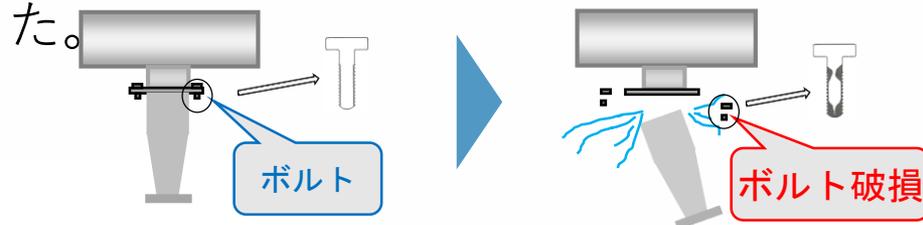
- 令和7年6月28日未明に鎌倉市浄明寺2丁目において、昭和39年に布設した**鋳鉄管**が破損し、約1万戸の世帯が断水する漏水事故が発生しました。
- 断水は、同日4時30分頃から15時頃までの約11時間続き、その後濁り水等の排水を行い、22時頃に復旧しました。



漏水状況 6/28 4:30頃

漏水原因

- 口径500mmの送水管から分岐した直後の口径250mmの**鋳鉄管**の継手部ボルトが腐食し、離脱したことが原因でした。



漏水箇所の状況

対応状況等

- (応急給水) 給水車（県水:14台、管工事組合:5台）により、小中学校など最大10か所で応急給水を実施
- (広報等) HP及びLINE(県、市)による広報に加え、断水区域には広報車4台による広報を実施
- (復旧工事) 修理工事は13時までに完了、13時20分から通水を開始

今後の対応

- 漏水した水道管の更新工事を、昨年度から着手していたところでしたが、できる限り早期の完了を目指し、工事を進めます。
- 更新工事が完了する（R8年度末）までの再発防止策として、水圧の影響が大きい曲線部分のボルトの取替・補強を行います。
- 現在実施している給水区域内の基幹管路などの漏水調査について、鎌倉地区の調査時期を前倒して、早急に実施します。

1. 答申のふりかえり（施設整備）

2. 施設整備の計画策定と取組状況について

3. 最近の事業環境の変化について

県営水道を取り巻く環境

- 今後迎える大量の更新需要
- 自然災害の頻発化、大規模地震の切迫性
- 要求水準の高まる水質管理への対応
- 将来の需要に応じた施設規模の適正化

水道事業者の使命

生活に欠かすことのできない“水”を安定的に供給し続ける



長期的な視点による施設整備のあり方

1 施設整備の方向性と目指す姿

安全で良質な水道

将来にわたり適切に
管理された水道

災害・事故にも
強い水道

環境にやさしい水道

この実現に向けた取り組みについて
水道使用者に分かりやすく示すことが適当

1. 答申のふりかえり（施設整備）

2 戦略的な管路整備

(1) 管路整備の方向性

災害発生時における、**被害の抑制や早期復旧などの効果に着目した戦略的な管路整備**を実施することが望ましい。

(2) 30年後の効果

【現状(R2実績ペース)】

基幹管路
5.0km

配水支管

71km

基幹管路の30年後の姿
耐震適合率 **86%**、残存老朽管 **49km**

管路更新事業費：約**170億円/年**

[30年後の被害想定] 断水戸数(直後)：**64万戸** 延べ断水戸数：**1,103万戸** 復旧日数：**30日**

県営水道が目指す形

【基幹管路及び復旧困難箇所を優先的に更新】

基幹管路
10.1km

配水支管

73km

基幹管路の30年後の姿
耐震適合率 **100%**、残存老朽管 **ゼロ**

管路更新事業費：約**220億円/年**

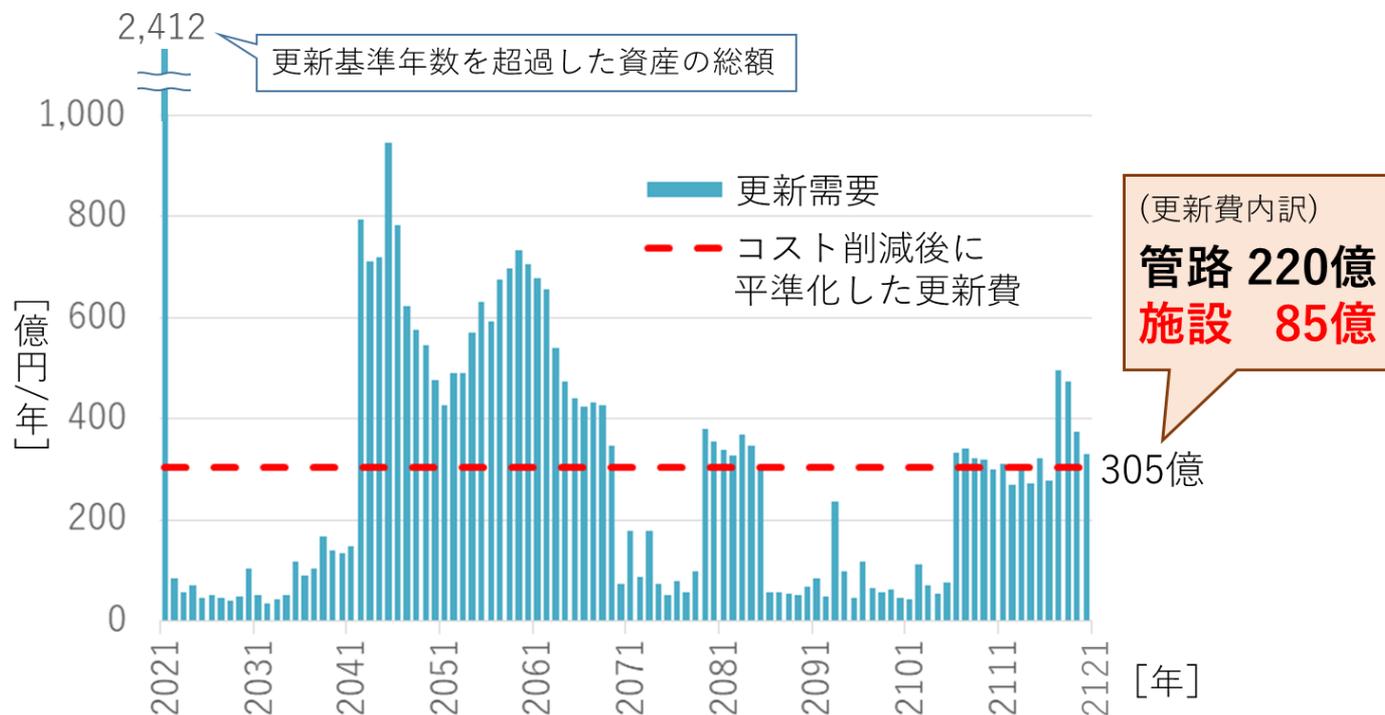
[30年後の被害想定] 断水戸数(直後)：**11万戸** 延べ断水戸数：**112万戸** 復旧日数：**18日**

3 施設整備の水準

(1) 長期的な水準

施設整備に必要な事業費の水準について、**年平均305億円**が必要な水準である。

【100年間の更新需要】（第3回審議会資料を一部編集）



R3時点の単価等で試算（総額3兆500億円÷100年＝305億円/年）

3 施設整備の水準

(3) 増大する事業量・事業費への対応

< 事業量への対応 >

- 県営水道の執行体制を強化
- 工事を請け負う民間事業者側の体制づくりのためにも積極的に施設整備の水準を公開

< 事業費への対応 >

- 施設の長寿命化やダウンサイジングによる削減
- 新技術の活用による業務の一層の効率化
- 国庫補助金等の公的資金の積極的な活用



財源確保に向けた不断の経営努力が求められる

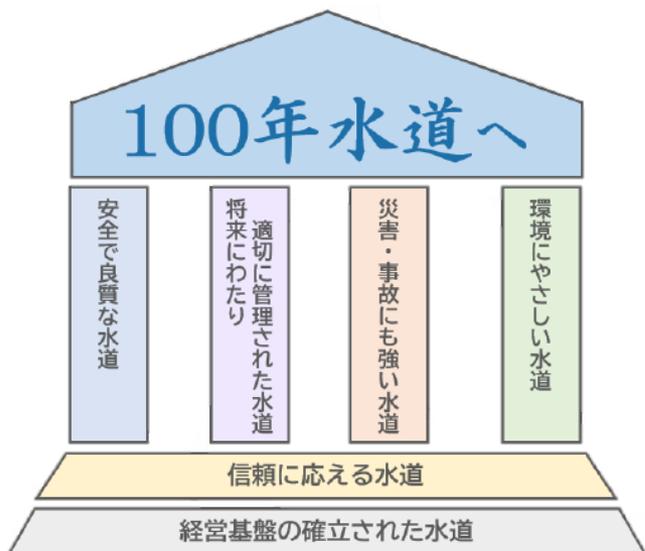
1. 答申のふりかえり（施設整備）

2. 施設整備の計画策定と取組状況について

3. 最近の事業環境の変化について

神奈川県営水道長期構想及び経営計画では、6つの観点と15の目指す姿の達成に向けた取組に分類しました。

< 6つの観点 >



< 15の目指す姿 >

 安全で良質な水道	① 安全で良質な水道水が、どこでも常に供給されています ② 気候変動等による水質変化に対して、的確な対応が実施できています
 将来にわたり適切に管理された水道	③ 水需要に合わせて施設規模が適正化され、効率的に利用されています ④ 施設が適切に維持管理され、計画的に更新されています ⑤ 多様な関係者との連携により、県営水道が単独で実施するよりも効果的な施設整備が行われています
 災害・事故にも強い水道	⑥ ストレスを感じることがなく生活が送れるよう、安定給水が継続されています ⑦ 大規模地震発生時においても、基幹施設の被害を最小限に抑える対策がなされています ⑧ 激甚化する様々な災害・事故に対し、被災した場合にも迅速に対応できる対策がなされています
 環境にやさしい水道	⑨ 持続可能な社会の実現に向けて、環境に配慮された施設が構築されています
 経営基盤の確立された水道	⑩ ICTをはじめとする技術を活用し、事業の効率化が図られています ⑪ 水道料金のあり方について定期的な検証を行うなど、財政の健全化が図られています ⑫ 事業環境に合わせた組織づくり・体制づくりが行われています
 信頼に応える水道	⑬ 県営水道への理解を深めていただけるよう、積極的な情報発信と適切な情報提供がされています ⑭ 様々なニーズの把握に努め、その結果が事業運営に反映されています ⑮ 今まで培ってきたノウハウを活かし、地域社会や国際社会に貢献しています

「災害・事故にも強い水道」の実現に向けて

✓ 戦略的な管路整備を推進する！ 基幹管路の耐震適合率75%へ

これまで

量

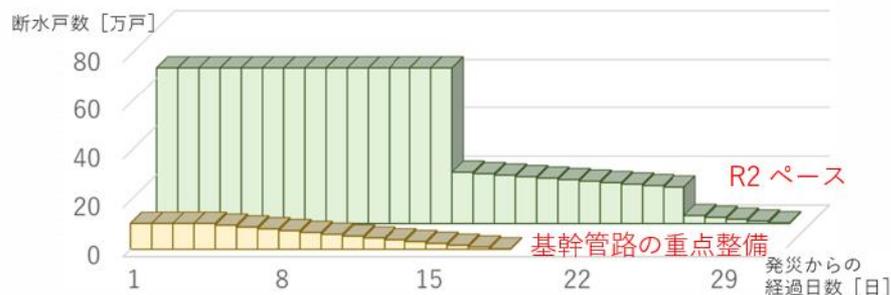
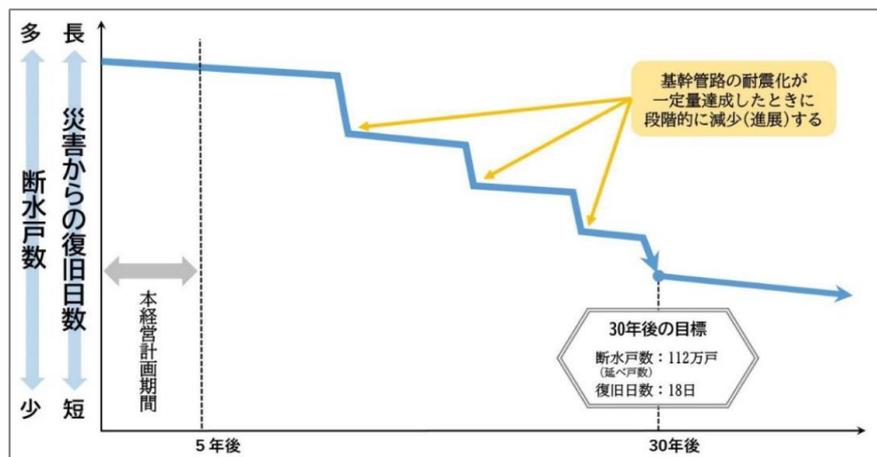
「管路更新率1%以上」
を目標に更新

これから

質

「災害時の被害抑制」と「早期復旧」を目指す！

- 断水の影響が広範囲に及ぶ**基幹管路を重点化**
- **復旧に時間を要する管路**を優先に更新
- 災害時に拠点となる**重要給水施設**への管路更新を優先



	総更新延長 (km/年)	基幹管路耐震適合率	全管路耐震適合率	施設整備の効果		
				発災直後断水戸数 (戸)	延べ断水戸数 (戸)	復旧日数 (日)
30年後	R2ペース	86%	48%	64万	1,103万	30
	基幹管路の重点整備	100%	51%	11万	112万	18

「将来にわたり適切に管理された水道」の実現に向けて



寒川浄水場、谷ヶ原浄水場の**再整備**を行う！

寒川浄水場

第2浄水場（21万m³/日）を**R12を目途に廃止**する

- 企業団からの供給に切り替えるための基幹管路更新工事等を実施
- バックアップのため、杉久保送水ポンプ所を整備し、リスクへの備えを強化
- 第3浄水場の単独運用を可能にするため、老朽化した電気設備を更新

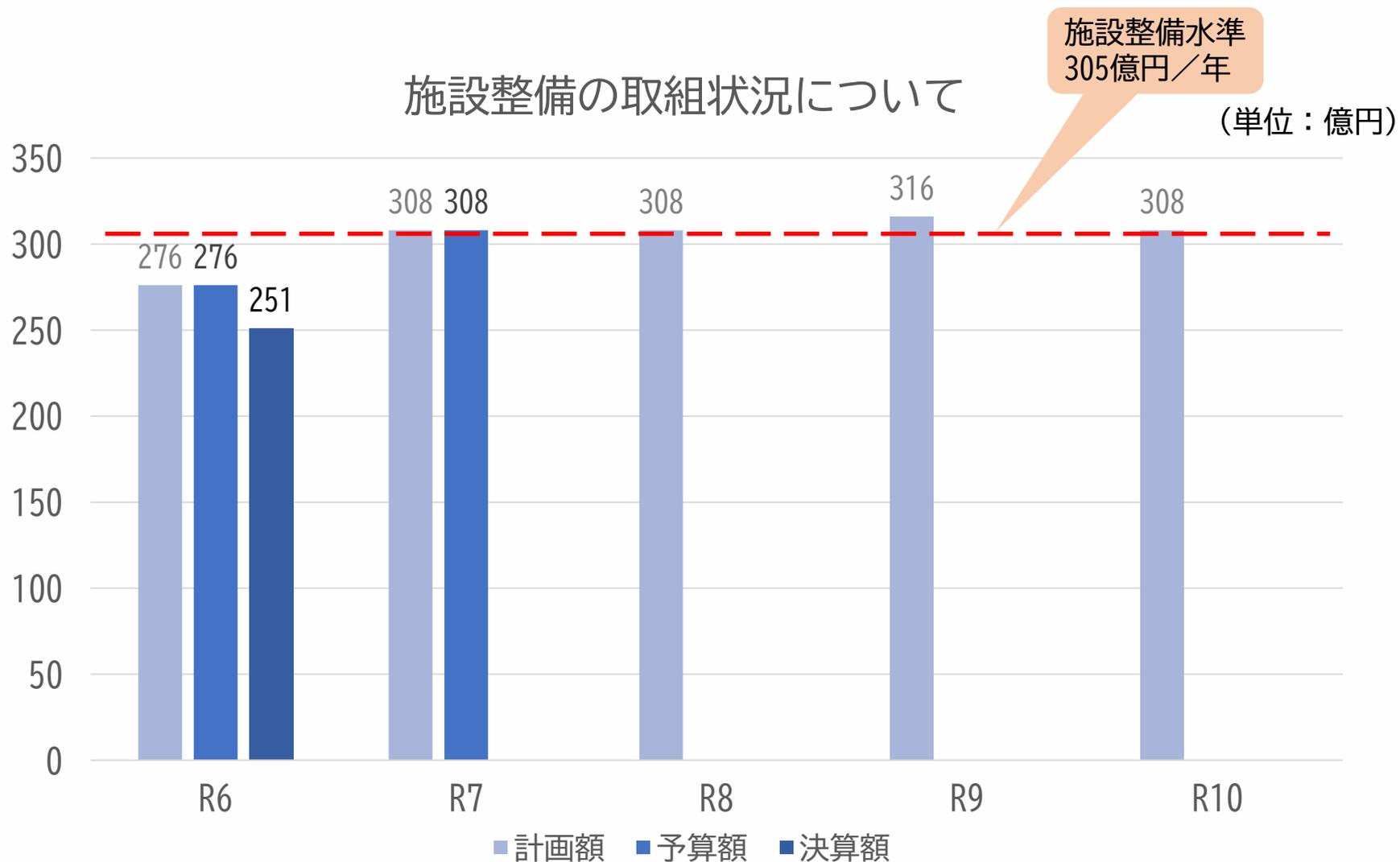
谷ヶ原浄水場

脱炭素化や災害・セキュリティ対策を踏まえた**浄水施設全体の再整備**を行う

- 令和6年度に基本計画策定作業に着手し、処理フロー・方式・能力・規模などを検討
- 基本設計、詳細設計等を実施し、再整備に向けた準備

神奈川県営水道事業経営計画の主な指標値

指標・目標項目	R5		R10
基幹管路耐震適合率	72%	▶▶▶▶	75%
重要給水施設管路耐震化	53/258箇所	▶▶▶▶	131/258箇所
主要配水池等の耐震化	83%	▶▶▶▶	96%
揚水ポンプ所の停電対策	12箇所	▶▶▶▶	18箇所
有効率	95%以上を維持	▶▶▶▶	95%以上を維持



1. 答申のふりかえり（施設整備）
2. 施設整備の計画策定と取組状況について
3. **最近の事業環境の変化について**

① 上下水道耐震化計画の策定

- 能登半島地震を踏まえ、上下水道一体で耐震化を推進するため、国土交通省より「上下水道耐震化計画」の策定通知がありました。

国の方向性

- 急所施設や避難所等の重要施設に接続する上下水道管路等について、耐震化を推進する。

長期構想・経営計画

- 重要な施設から優先して耐震化を実施しています。
- 災害拠点病院及び災害協力病院といった「重要給水施設」へ供給する管路について、優先して耐震化を実施します。

□ 上下水道耐震化計画を令和7年1月に策定の上、HPに公開

□ 国が示す方向性と県営水道の目指す姿は一致しているため、既存計画・耐震化を着実に進めていくが、今後、重要施設の追加やさらなる配水池等の耐震化を検討していく必要がある。

② 全国で相次ぐ上下水道管事故 (1)

埼玉県八潮市 道路陥没事故

- 令和7年1月に八潮市内の交差点において、中川流域下水道の下水道管の破損に起因すると思われる陥没が起き、走行中のトラックが転落する事故が発生しました。
- これを受けて国は、進行するインフラ老朽化への対応として緊急的に対策を講じる必要のある要緊急対応箇所の早期解消を図るため、水道施設の戦略的維持管理・更新対策の指標検討に向けた調査を実施しました。

<調査内容>

- ① 漏水リスクが大きく優先的な更新が必要な口径800mm以上の管路対策
- ② 大規模水道システムにおけるリダンダンシー(冗長性)確保に向けた対策

□ 令和7年6月に公表された第1次国土強靱化実施中期計画では「大口徑管路の更新や複線化」などの目標が示されたことから、引続き国の動向を注視しながら、今後の対応を検討していく必要がある。

③ 全国で相次ぐ上下水道管事故（2）

京都市 水道管漏水事故

- 令和7年4月30日に京都市で水道管の漏水事故が発生し、道路が冠水して、終日、国道1号が交通規制となるとともに、住居の浸水被害等が生じました。
- 漏水した水道管は、布設から60年以上が経過した鑄鉄管であったことから、緊急輸送道路下に埋設されている老朽化した鑄鉄管を対象に、国は各水道事業者へ緊急調査を要請しました。



- 県営水道では緊急調査を5/9～23で実施、異状は確認されなかった。
- 国からは抜本的な鑄鉄管の解消に向けて、令和8年1月までに「鑄鉄管更新計画」を策定するよう要請されており、今後、計画策定、着実な実施を検討していく必要がある。

④ 国庫補助・交付金の活用

- 令和6年4月に厚生労働省の所管する水道整備・管理行政が国土交通省・環境省へ移管され、「生活基盤施設耐震化等交付金」から「社会資本整備総合交付金／防災・安全交付金」となりました。
- 水道の地震対策に係る補助要件の緩和等によって、従来対象でなかった県営水道も採択要件に一部合致しました。



□ 令和7年度における「防災・安全交付金」の補助額は、約**12.7**億円となった。

R5	R6	R7
約1.1億円	約1.0億円	約 12.7 億円

□ 今後も引続き国庫補助金等の公的資金の積極的に活用していく必要がある。

⑤ 物価高（資材・労務費等）の状況

水道工事資材

- 直管（GX形φ100）約29%高
- 仕切弁(φ100) 約23%高

※ R3.4→R7.4の変化

主な資材単価の推移（R3.4～R7.4）

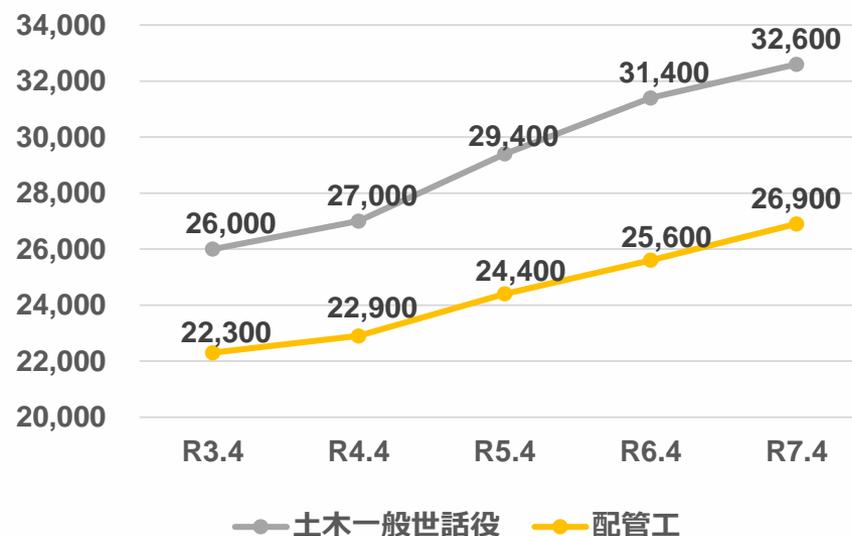


労務費

- 土木一般世話役 約25%高
- 配管工 約21%高

※ R3.4→R7.4の変化

主な労務単価の推移（R3.4～R7.4）



□ 今後も引続き物価の動向を注視する必要があります。

課 題

【地震対策（上下水道耐震化計画関係）】 ...①

上下水道一体で耐震化を推進する要請への対応

- ・ 市町との調整によっては、重要給水施設を追加
- ・ 重要給水施設に接続する配水池等の耐震化を推進

【強靱化対策（国土強靱化計画関係）】 ...②

災害・事故時等の安定給水の観点で踏まえた目標への対応

- ・ リダンダンシー（冗長性）の脆弱な管路の対策を推進

【老朽化対策（铸铁管更新計画関係）】 ...③

铸铁管の解消に向けた要請への対応

- ・ 铸铁管更新の計画策定・着実な実施に向けた検討

【その他】 ...④⑤

国庫補助、物価動向への対応

- ・ 国庫補助等の公的資金の積極的な活用
- ・ 物価高（資材・労務費等）の動向を注視